

7. 大学院における高度人材としての管理栄養士の教育について

1) はじめに

管理栄養士に求められる社会的ニーズは多様かつ高度化していることから、学部4年間での教育に加えた修士課程2年間での高度専門教育の重要性は高まっている。したがって、各専門分野における現状と今後の社会変化をふまえながら、“4年+2年”としての教育内容と教育方法を検討していく必要がある。しかし、「管理栄養士養成課程を有する大学」に限定しても大学の構成はさまざまであり、大学院のコースやカリキュラムも大きく異なり、「管理栄養士養成課程」(学部教育)のように「コア」となるカリキュラムを提案することは現時点では困難である。

そこで本報告書では、高度人材としての管理栄養士の主な就業先である「医療・介護分野」「公衆栄養(行政)分野」「給食経営管理分野」に加えて、栄養関連大学院の調査¹⁾結果から「スポーツ栄養分野」を取り上げた^{注)}。また、持続可能な開発目標(SDGs)や、国連「栄養の行動の10年」²⁾といった国際的動向を受け、国際的に活躍できる高度人材育成の必要性という観点から「国際栄養分野」についても取り上げることとした。以上の5つの分野について、管理栄養士としての専門性の高度化という観点から、大学院における学修の基本、特に重要と考えられるコンピテンシー(業務遂行能力)、ならびにそれに必要な教育内容を例示的に整理することとした。

注)平成29年度管理栄養士専門分野別人材育成事業の管理栄養士・栄養士の教育の現状分析WGによる栄養関連大学院の調査¹⁾において、修士(前期)課程の人材養成の中の職業人養成の分野として1番多かった臨床栄養分野(86.2%)、2番目の公衆栄養分野(75.4%)に次いで、「健康・栄養スポーツ分野」が3番目に多かった(73.8%)。

2) 本報告書のスコープ(範囲)

- ・ 管理栄養士の資格を有する者が大学院教育を受ける場としては、栄養学系以外に、医学系、農学系など多様な大学が考えられるが、管理栄養士養成課程を有する大学の大学院を本検討での範囲とする。
- ・ 管理栄養士としての実践分野は多様性を増しているが、本報告書では「医療・介護分野」「公衆栄養(行政)分野」「給食経営管理分野」「スポーツ栄養分野」「国際栄養分野」とする。なお、栄養学の基礎研究および食品の機能性等に関する基礎研究を志向する管理栄養士の教育に関しては、今回の範囲としない。
- ・ 管理栄養士実践に関わる研究をテーマとする大学院生については、実践現場での勤務を続けながら修学するいわゆる「社会人大学院生」や、実践現場での経験を有する者が多い。したがって、これらの実践経験や訓練の程度は学生によってさまざまであるが、本報告書では学部から直接あるいは短い実践経験の後に修士課程に進学した学生を主に想定する。
- ・ このことから、修学の内容にはいわゆるインターンシップ的な要素を含むが、「専門職大学院」や高度実践看護師教育課程[専門看護師(CNS)コース](日本看護協会)のような制度設計の検討は今回含めない。
- ・ いわゆる団塊の世代が後期高齢者となる2025年を目途として地域包括ケアへの転換準備が

現在進められているが、それ以降の社会的状況をふまえた検討とする。

3) 大学院における学修の基本

- ・ **栄養学を基盤とした専門性の高度化と実践**
 栄養学を基盤としたそれぞれの分野の専門性を、自律的な学修により深め、実践現場における探究心や問題解決能力を高める。
- ・ **論理的思考の涵養とリサーチマインドに立脚した課題解決**
 論理的思考能力を高めるとともに、リサーチマインドをもち、実践活動などにより生じた問題意識から着想した研究の計画・実施・解析・報告を行う能力を身につける。
- ・ **多様な対象・職種・組織の理解と柔軟かつ合理的な対応**
 多様な対象者への共感と理解、他職種、関連する組織などとの連携・調整を効果的に行う能力を高める。

4) 各分野における現状と課題

(1) 医療・介護分野

医療・介護の分野は、国の制度上は独立しており、「臨床栄養」においても医療分野を示す「病態栄養」と介護分野を示す「在宅栄養」に大別される。しかし実際には、疾病、ライフステージ、ライフスタイル、身体機能等に応じた複合的な栄養管理や栄養指導が求められ、地域包括ケアにおいてはさらに、施設内での栄養管理に加えて、生活の場での多職種連携による総合的な支援が重要となる。これらのことをふまえ、社会的背景を基に問題点を抽出・評価するとともに、計画から実践につなげる能力と、統括する能力が求められる。またこの分野では、座学に加えて、実際の医療や介護現場での実践教育によるニーズに即した演習、ならびに高度なコミュニケーション能力を獲得することが求められる。

今後、医療・介護を担う管理栄養士においては、栄養を中心とした専門的視点とともに、「一人の人として、その人らしい生活を支える」という視点を持った cure のスキルについても強く求められる。したがって、大学院での関連学部や教員間の連携による教育は重要と考えられる。

(2) 公衆栄養(行政)分野

我が国では、「公衆栄養学」をベースとして行政分野で取り扱う健康・栄養問題の改善や解決を系統的に学修できる大学院はほとんどない。このため、従来から設置されている医学系研究科や栄養学系研究科で関連する分野を中心に履修しフィールドワークを組み合わせる、あるいは、近年設置が進んでいる公衆衛生大学院に進学するなどの現状がある。近年、行政で勤務する医療系職種においても、高度な専門的知識や技術が求められるようになってきている。このため、保健師の養成課程は、国公立大学を中心に修士課程へとシフトしてきており、行政分野に勤務する管理栄養士においても、大学院などで高度な専門的素養を身につけることは、他職種と対等に連携する上でも必要である。

なお、この分野では、学部を卒業し管理栄養士免許を得て直ちに進学する者と、行政において一定期間以上勤務した後に自身の資質向上のために進学する者があり、それぞれ求められる教育内容に違いがある場合もある。いずれにしても、単独の大学院において、求められる多様な教育内容をすべて網羅することは難しいと考えられる。したがって、複数の大学院間の連携の下で、それぞれの教育資源を活用できる新たな教育システムの構築が求められる。

(3) 給食経営管理分野

給食経営管理分野では、特定多数を対象とする各種給食施設における食事提供、配食サービス、不特定多数を対象とする中食および外食産業等、管理栄養士として活動する場は多様である。食事による介入効果の検証を通じて給食の運営を評価することができるが、実践の場ではそのような検証は十分ではない。また、「給食経営管理学」としての体系化に至っていない現状では、栄養学を基盤とした大学院における給食経営管理分野の研究者は少なく、系統的な学修をふまえ、実践的課題解決のための研究に取り組める環境は不足している。

具体的には、目標とすべき品質の食事を実現するためには、食材料管理、施設・設備管理、労務管理、原価管理、衛生管理等を統合しながら、生産を運営管理する給食経営管理の技能の高度化が必要である。各管理の課題とそれらを統合することに関わる課題等、解決すべき課題は多岐にわたる。したがって、生産工学や経営学等の栄養学以外の研究領域と連携し、それらを融合した研究を推進することが必要である。また、フードサービス市場では、国際的な食品流通や人の移動に伴う、国際基準に基づく安全確保と効率化の向上等の社会的ニーズに対応すべく、技術およびシステム開発が加速している。栄養学と異なる領域の大学院との新たな連携、さらには産業界と連携していく教育および研究環境が必要である。

(4) スポーツ栄養分野

スポーツ栄養の対象者とは、運動やスポーツによって身体活動量が多い人であるといえる。すなわち、アスリートだけではなく、スポーツ愛好家や健康の保持・増進を目的に身体活動を多くしている人、小・中・高校の子どもたちも含まれ^{注)}、その社会的ニーズは益々高まってきている。スポーツ栄養分野は、身体活動時の生理・生化学的な知識とそれに応じた栄養学的ニーズ、食の選択・提供能力、多職種連携能力、食環境整備などの能力が求められる応用分野である。

大学院においてこの分野を選択する管理栄養士・栄養士の所属は、スポーツ現場、受託給食会社、食品企業、特定保健指導従事者、栄養教諭・学校栄養職員など多岐にわたる。実践的な栄養管理に加えて、食品やサプリメントに関する高度な知識やスキルも必要であり、所属においては専門職としてのリーダーシップやコンサルテーションの能力も求められる。スポーツ栄養学研究は日々進化しており、国内外の最新情報を得て、対象者に合わせた視点から現場で応用する能力が求められる。エビデンスを積み重ねるため、課題や問題点を解決し、より質の高い栄養管理を行うため、教育環境の整備および教育システムの構築が求められる。

注)「健康づくりのための運動基準」(2006年 厚生労働省)では、運動を「身体活動のうち、体力の維持・向上を目的として計画的・組織的に継続して実施するもの」と位置付けている。

(5) 国際栄養分野

「国際栄養(global nutrition)」を系統的に学修することのできる大学院は国内では存在しない。また、栄養学系大学において、「国際栄養」を専門とする指導教員を有する大学院も極めて限られている。そのため、国際保健コースを有する大学院(医学系)や、海外での MPH や熱帯医学コースなどで学ぶ者がこれまで多かった。

国際的なアジェンダとして持続可能な社会と開発のための栄養に注目が高まっており、国連「栄養の行動の10年」²⁾などに応じ、「成長のための栄養(Nutrition for Growth: N4G)サミット 2020(仮称)」の日本開催が決定されている。したがって、今後、管理栄養士あるいは栄養を専門とする者が国際的に活躍する機会が更に増加すること、そして、これらを担う人材育成のニーズが高まることが予想される。また、国際的な食品流通や人の移動が加速する中で、国際的な食品保健のメカニズムに対応できる人材の育成も重要である。しかし、単一大学の大学院において必要な教育をカバーすることは現時点では困難であり、大学院間の連携により教育資源の効果的・効率的な活用を図る必要がある。

5) 大学院における特に重要なコア・コンピテンシー

学部4年間での学修および管理栄養士国家試験レベルの到達度を基盤として、修士課程2年間において次のコンピテンシーを高める。

・栄養学を基盤とした専門性の高度化と実践

1. 学部で修得した栄養学の各領域に関わる知識や思考力を統合し、自らが置かれた管理栄養士としての実践において、適切な判断や行動につなげる。
2. 実践現場における課題を認識し、疑問をもち、自律的に学修し、課題解決に向けた行動につなげる。

・論理的思考の涵養とリサーチマインドに立脚した課題解決

3. 英文を含めた関連資料や先行研究を的確に検索・抽出し、それらの読解および要約を作成し、自らの業務改善に活用するとともに、他者にも説明できる。
4. 自らの問題意識からリサーチクエスチョンやクリニカルクエスチョンを着想し、先行研究などをふまえて、適切な仮説設定を行う。
5. 仮説に対して、科学的に妥当かつ、倫理的にも、実施可能性の面でも適切な調査・研究計画を立てる。
6. 実際の人や地域を対象とした調査研究における制約を知り、不確実性(uncertainty)、バイアス、データ精度などを考慮した解析や解釈を行う。

7. 調査研究結果について、目的に沿った形で報告書や論文としてまとめ、わかりやすく発表する。

・多様な対象・職種・組織の理解と柔軟かつ合理的な対応

8. 生活者としての個人への共感と理解を深める多様な経験に基づき、論理的なプロセスを経て、対象者や地域に寄り添った行動をする。
9. 他職種との連携・協働のための基盤を構築し、職業および組織倫理をふまえた行動をする。
10. 組織や地域などにおける資源を把握し、経営的な視点を持ちながら、評価を含めたマネジメントに必要な能力を高める。

6) 各分野における大学院教育（学修）の例

- ・ コンピテンシーについて、特に重要と思われる項目に絞った。5に示した管理栄養士としての「コア」に加えて、各分野における重要と考えられるコンピテンシーを示した。
- ・ 重要なコンピテンシーについてそれを高めるための教育として、「科目例」を列記したカリキュラム構成例を示し、その内容を簡単に説明した(科目名はあくまでも例示に過ぎない)。
- ・ 各分野の科目例が相互比較の中で、把握できるようにカリキュラム構成例の一覧表を作成した(参考資料)。

7) 今後の検討課題

国内外の社会状況の変化や技術革新(AIやロボットを含む)の動向をふまえて、高度職業人としての「管理栄養士の専門性」を常に点検し、実践と研究ならびに人材養成についての相乗的な効果を生み出すことのできる場として、大学院を構築・運営することが求められる。今回は、「栄養学系」という範囲での検討を行ったが、他の保健医療福祉職との連携や、農学・工学・社会科学などとの協働による革新的な技術をとり入れた栄養実践への展開につながるような研究・開発も今後重要となるであろう。そのため、現況の社会システム(法律、制度、報酬等)の中での管理栄養士の養成という発想を大きく超えた未来像を描き、制度変革・技術革新を推進することができるような人材育成を指向した検討を引き続き行う必要がある。また、人口構造の急速な変化の中で、保健医療福祉分野での社会的ニーズの変化への対応とともに、高等教育のあり方そのものが問われている。これらのことを念頭におき、特色のある、また多様な教育プログラムへの転換も必要である。

参考文献

- 1)平成 29 年度管理栄養士専門分野別人材育成事業「教育養成領域での人材育成」報告書。
http://jsnd.jp/img/H29_houkoku1.pdf (2019 年 3 月 27 日)
- 2)FAO:UN General Assembly proclaims Decade of Action on Nutrition.
<http://www.fao.org/news/story/en/item/408970/icode/> (2019 年 3 月 27 日)

各分野における大学院教育(学修)の例

分野	医療・介護
分野の特徴と教育の視点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療・介護に関わる栄養問題を提議し、分析・評価、計画により実践につなげることでできる人材を育成する。 ・ 地域包括ケアに対応して、医療・介護・福祉および地域のつながりの中で、生活者に寄り添った栄養管理を多職種連携により実践できる人材を育成する。 ・ 医療・介護においては、Human Nutrition の視点が重要である。
特に重要なコンピテンシー (コア項目を除く)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 傷病者や高齢者の栄養に関する課題を解決するために、その社会環境や背景を把握し、自助・互助・共助・公助の観点から改善計画を立て提案する。 ・ 栄養療養(食事療法)に関わる問題点について優先順位を決定し、改善のために対象者と共に目標を設定する。 ・ 個々のライフステージやライフスタイル、疾病状況や身体状況に応じた栄養の教育を実施する。 ・ 臨床や介護に関する最新の栄養情報や臨床情報・ガイドライン等を、国内外のデータベースや文献を基に栄養治療の方針を見出す。
教育内容の例 (科目例) ◆は分野共通科目	<p>(講義科目)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 医療倫理と研究倫理:医療における倫理,人や地域を対象とした研究を行う上での倫理,情報管理 ◆ 栄養疫学特論:基礎理論と論文の理解 ◆ 調査法特論:量的・質的調査法の理解と研究計画 ◆ 地域包括ケア特論:地域における保健・医療・福祉の連携による生活者の視点を重視したケアを展開するための概念・制度・手法・展開例 ・ 臨床栄養学特論:静脈栄養法を含む最新の栄養管理(治療)法 ・ EBM 特論:傷病者と要介護者の栄養ケアに関する研究論文や症例報告の読み方,根拠に基づく診療ガイドラインの理解 ・ 臨床研究概論:臨床分野における調査や研究の方法,研究計画の作成 ・ NCP 特論:さまざまな病態を有する傷病者,要介護者に対して実際の臨床現場で遭遇する複雑な症例に対する NCP の理解 ・ 臨床心理学特論:臨床心理学の定義,対象,方法(代表的な心理検査,心理療法) ・ 運動療法と栄養管理:運動療法(健康の維持増進を目的としたもの,治療を目的としたもの)とリハビリテーション時の栄養管理 <p style="text-align: center;">注)EBM: Evidence Based Medicine, NCP: Nutrition Care Process</p> <p>(演習科目)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 学術英語読解演習 I・II:自らが必要とする英語論文についての読解と要約・発表 ◆ 疫学統計解析演習:量的研究の計画,データ収集,精度管理,データ処

	<p>理, 解析および提示方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 栄養・食事調査法演習: 食事評価を中心とする曝露測定 of 技法とデータ処理 ◆ 地域包括ケア演習: 多職種および施設連携の下での生活者主体のケアについてのケーススタディ, フィールドワーク ・ NCP 演習: さまざまな病態を有する傷病者, 要介護者に対して, NCP に基づいた栄養ケア計画の作成(ケーススタディ) 												
<p>カリキュラム 構成例</p> <p>◆は分野共通科目</p>	<p>(コースワーク)</p> <table border="1" data-bbox="480 618 1409 1099"> <thead> <tr> <th colspan="2">修士 1 年</th> <th colspan="2">修士 2 年</th> </tr> <tr> <th>前期</th> <th>後期</th> <th>前期</th> <th>後期</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="480 730 759 1099"> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 医療倫理と研究倫理 <ul style="list-style-type: none"> ・ EBM 特論 ・ 臨床栄養学特論 ◆ 調査法特論 <ul style="list-style-type: none"> ・ 臨床研究概論 ◆ 学術英語読解演習 I </td> <td data-bbox="759 730 1026 1099"> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 栄養疫学特論 <ul style="list-style-type: none"> ・ NCP 特論・演習 (高齢者) ・ NCP 特論・演習 (傷病者) ◆ 疫学統計解析演習 ◆ 栄養・食事調査法演習 ◆ 学術英語読解演習 II </td> <td data-bbox="1026 730 1291 1099"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 臨床心理学特論 ◆ 地域包括ケア特論 ◆ 地域包括ケア演習 ・ 運動療法と栄養管理 </td> <td data-bbox="1291 730 1409 1099"></td> </tr> </tbody> </table> <p>(リサーチワーク)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 特別研究 ・ 大学・大学院の連携協定などに基づく交流や共同研究 ・ 国内外での学会発表や参加 <p>(フィールドワーク)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域ケア会議等, 行政を含む多職種による会議に参加し, 退院から在宅栄養管理への流れを学修 <p>(インターンシップ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ インターンシップ(3ヶ月程度)(病院, 健診センター, 高齢者介護施設, 地域医療サポートセンター等) ・ 海外研修(他国の臨床栄養学を見学, 短期インターンシップ) 	修士 1 年		修士 2 年		前期	後期	前期	後期	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 医療倫理と研究倫理 <ul style="list-style-type: none"> ・ EBM 特論 ・ 臨床栄養学特論 ◆ 調査法特論 <ul style="list-style-type: none"> ・ 臨床研究概論 ◆ 学術英語読解演習 I 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 栄養疫学特論 <ul style="list-style-type: none"> ・ NCP 特論・演習 (高齢者) ・ NCP 特論・演習 (傷病者) ◆ 疫学統計解析演習 ◆ 栄養・食事調査法演習 ◆ 学術英語読解演習 II 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 臨床心理学特論 ◆ 地域包括ケア特論 ◆ 地域包括ケア演習 ・ 運動療法と栄養管理 	
修士 1 年		修士 2 年											
前期	後期	前期	後期										
<ul style="list-style-type: none"> ◆ 医療倫理と研究倫理 <ul style="list-style-type: none"> ・ EBM 特論 ・ 臨床栄養学特論 ◆ 調査法特論 <ul style="list-style-type: none"> ・ 臨床研究概論 ◆ 学術英語読解演習 I 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 栄養疫学特論 <ul style="list-style-type: none"> ・ NCP 特論・演習 (高齢者) ・ NCP 特論・演習 (傷病者) ◆ 疫学統計解析演習 ◆ 栄養・食事調査法演習 ◆ 学術英語読解演習 II 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 臨床心理学特論 ◆ 地域包括ケア特論 ◆ 地域包括ケア演習 ・ 運動療法と栄養管理 											
<p>備考</p>													
<p>参考資料</p>	<p>国立大学法人徳島大学大学院栄養生命科学教育部 https://www.tokushima-u.ac.jp/department/graduate_school/nutrition.html (2019年3月29日)</p> <p>公立大学法人神奈川県立保健福祉大学大学院保健福祉学研究科 http://www.kuhs.ac.jp/shoukai/2015042100012/#hakasezenki (2019年3月29日)</p> <p>名古屋学芸大学大学院栄養科学研究科カリキュラム https://www.nuas.ac.jp/profile/faculty/grad/nutritional/index.html (2019年3月29日)</p>												

分野	公衆栄養(行政)
分野の特徴と教育の視点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 法律や制度に基づく諸活動の理解と、理論・モデルおよび関連研究の理解に基づいて、新たな制度設計やプログラムの提案につなげる創造性を養う。 ・ 行政分野で取り扱う栄養問題の改善・解決に際して、リーダーシップを発揮することができる能力を養う。 ・ マネジメントサイクルにより、関連他職種や地域・職域からも、容易に理解が得られる科学的根拠に基づく行政施策を展開することができる基礎能力を養う。
特に重要なコンピテンシー (コア項目を除く)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 疫学的な考え方にに基づき、地域・職域における健康・栄養課題を把握し、マネジメントサイクルにつなげる。 ・ 対象者や目的に応じた食事調査法を選択し、実施する。 ・ 地域・職域の健康・栄養課題を解決するために必要な、ヘルスプロモーション、食環境整備の観点を含めた継続的な施策を立案、運営管理する。
教育内容の例 (科目例) ◆は分野共通科目	<p>(講義科目)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 医療倫理と研究倫理:医療における倫理, 人や地域を対象とした研究を行う上での倫理, 情報管理 ◆ 栄養疫学特論:基礎理論と論文の理解 ◆ 調査法特論:量的・質的調査法の理解と研究計画 ◆ 地域包括ケア特論:地域における保健・医療・福祉の連携による生活者の視点を重視したケアを展開するための概念・制度・手法・展開例 ・ 健康政策学:健康に関わる政策の基本的考え方, 国・地方での実際 ・ 公衆栄養学特論:国内外の健康・栄養問題, 栄養政策, 保健・栄養分野の協力, 栄養介入プログラム ・ 給食マネジメント指導・活用論:行政としての給食施設指導のあり方, 給食施設を活用した健康・栄養施策の展開, 災害時を想定した食料備蓄や地域における食糧支援 <p>(演習科目)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 学術英語読解演習 I・II:自らが必要とする英語論文についての読解と要約・発表 ◆ 疫学統計解析演習:量的研究の計画, データ収集, 精度管理, データ処理, 解析および提示方法 ◆ 栄養・食事調査法演習:食事評価を中心とする曝露測定 of 技法とデータ処理 ◆ 地域包括ケア演習:多職種および施設連携の下での生活者主体のケアにつ

	<p>いてのケーススタディ, フィールドワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域・職域栄養活動演習:各種モデルを用いた住民参加型栄養活動計画, 栄養プロジェクトプロポーザル作成, 栄養アセスメント, 特定給食施設を活用した健康・栄養介入 ・ プロジェクトマネジメント・評価:プロジェクトの計画・提案, 量的質的評価 ・ ヘルスプロモーション演習:地域住民・ステークホルダー・他職種との連携, 社会資源の活用, アドボカシー, 政策形成 												
<p>カリキュラム 構成例 ◆は分野共通科目</p>	<p>(コースワーク)</p> <table border="1" data-bbox="453 683 1393 1153"> <thead> <tr> <th colspan="2">修士1年</th> <th colspan="2">修士2年</th> </tr> <tr> <th>前期</th> <th>後期</th> <th>前期</th> <th>後期</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> ◆医療倫理と研究倫理 ◆栄養疫学特論 ◆調査法特論 ◆学術英語読解演習 I ◆栄養・食事調査法演習 ・公衆栄養学特論 ・健康政策学 ・給食マネジメント指導・活用論 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ◆疫学統計解析演習 ◆地域包括ケア特論 ◆学術英語読解演習 II ◆地域包括ケア演習 ・地域・職域栄養活動演習 ・プロジェクトマネジメント・評価 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・ヘルスプロモーション演習 </td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(リサーチワーク)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別研究 ・大学・大学院の連携協定などに基づく交流や共同研究 ・既存データを活用した課題分析 ・国内外での学会発表や参加 <p>(フィールドワーク)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域・職域を対象とした, 健康・栄養に関わる疫学調査・研究への参画, 報告書の作成 <p>(インターンシップ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政機関におけるインターンシップ ・職域や健診機関におけるインターンシップ 	修士1年		修士2年		前期	後期	前期	後期	<ul style="list-style-type: none"> ◆医療倫理と研究倫理 ◆栄養疫学特論 ◆調査法特論 ◆学術英語読解演習 I ◆栄養・食事調査法演習 ・公衆栄養学特論 ・健康政策学 ・給食マネジメント指導・活用論 	<ul style="list-style-type: none"> ◆疫学統計解析演習 ◆地域包括ケア特論 ◆学術英語読解演習 II ◆地域包括ケア演習 ・地域・職域栄養活動演習 ・プロジェクトマネジメント・評価 	<ul style="list-style-type: none"> ・ヘルスプロモーション演習 	
修士1年		修士2年											
前期	後期	前期	後期										
<ul style="list-style-type: none"> ◆医療倫理と研究倫理 ◆栄養疫学特論 ◆調査法特論 ◆学術英語読解演習 I ◆栄養・食事調査法演習 ・公衆栄養学特論 ・健康政策学 ・給食マネジメント指導・活用論 	<ul style="list-style-type: none"> ◆疫学統計解析演習 ◆地域包括ケア特論 ◆学術英語読解演習 II ◆地域包括ケア演習 ・地域・職域栄養活動演習 ・プロジェクトマネジメント・評価 	<ul style="list-style-type: none"> ・ヘルスプロモーション演習 											
<p>備考</p>	<p>学部卒業後, 直ちに進学する者と, 行政等において一定期間以上の勤務歴を有し進学する者とが想定される. このため, 求められる教育内容に差異が生ずる場合も考えられる.</p>												
<p>参考資料</p>	<p>国立保健医療科学院 研修案内 https://www.niph.go.jp/entrance/h31/index.html (2019年3月29日)</p> <p>帝京大学大学院公衆衛生学研究科 http://www.med.teikyo-u.ac.jp/~tsph/ (2019年3月29日)</p>												

分野	給食経営管理
分野の特徴と教育の視点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 集団および個人を対象とした適切な栄養管理に寄与する食事の品質管理の向上をめざす. ・ 多岐にわたる給食システムを理解し, 栄養面, 安全面, 経済面において合理的かつ効率的な給食運営が管理できる能力の向上をめざした学修とする. ・ 活動の場や役割によって専門性はさまざまであるが, Human NutritionとCommunity Healthを統合する視点が重要である.
特に重要なコンピテンシー (コア項目を除く)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 食事提供の対象者および対象集団の課題の優先順位を決定し, 活動する場や環境に合わせて, 提供する食事(商品)の品質設計・生産・提供につなげる. ・ 生産システム構築の必要を理解し, HACCPに基づく工程管理につなげる. ・ 食材料管理, 施設・設備管理, 労務管理, 原価管理, 衛生管理等のサブシステム個々および相互の関連における課題解決につながる調査研究を行う.
教育内容の例 (科目例) ◆は分野共通科目	<p>(講義科目)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 医療倫理と研究倫理: 医療における倫理, 人や地域を対象とした研究を行う上での倫理, 情報管理 ◆ 栄養疫学特論: 基礎理論と論文の理解 ◆ 調査法特論: 量的・質的調査法の理解と研究計画 ◆ 地域包括ケア特論: 地域における保健・医療・福祉の連携による生活者の視点を重視したケアを展開するための概念・制度・手法・展開例 ・ 経営戦略と組織管理: 事業目的に応じた運営理論と手法, ならびに組織管理 ・ 給食経営管理論: 栄養管理の目的に応じた給食経営および運営の理論と手法 ・ 生産管理特論: 食事(商品)の設計, 生産, 販売, 食材料物流や食事の配送, 工程管理 ・ 品質管理特論: 食事(商品)の品質管理, 大量調理 ・ 危機管理学: 衛生管理, 災害時対策 ・ 財務・会計管理特論: システムと給食原価, 生産性と給食原価 ・ システム管理特論: 施設・設備とその新技術の動向, HACCP, 情報管理 ・ マーケティング論: 販売促進, 顧客満足 ・ 国際食品保健特論: 国際的な食品流通とコーデックス委員会, リスクアセスメント, リスクコミュニケーション, ハーモナイゼーションと国内基準 <p>*いずれの科目にも関連する法規制を含む</p>

	<p>(演習科目)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 学術英語読解演習Ⅰ・Ⅱ:自らが必要とする英語論文についての読解と要約・発表 ◆ 疫学統計解析演習:量的研究の計画, データ収集, 精度管理, データ処理, 解析および提示方法 ◆ 栄養・食事調査法演習:食事評価を中心とする曝露測定 of 技法とデータ処理 ◆ 地域包括ケア演習:多職種および施設連携の下での生活者主体のケアについてのケーススタディ, フィールドワーク 												
<p>カリキュラム 構成例</p> <p>◆は分野共通科目</p>	<p>(コースワーク)</p> <table border="1" data-bbox="480 712 1377 1193"> <thead> <tr> <th colspan="2">修士1年</th> <th colspan="2">修士2年</th> </tr> <tr> <th>前期</th> <th>後期</th> <th>前期</th> <th>後期</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> ◆医療倫理と研究倫理 ◆学術英語読解演習Ⅰ ◆栄養疫学特論 ◆調査法特論 ◆栄養・食事調査法演習 ・給食経営管理論 ・生産管理特論 ・品質管理特論 ・システム管理特論 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ◆疫学統計解析演習 ◆地域包括ケア特論 ・経営戦略と組織管理 ・危機管理学 ・財務・会計管理特論 ・マーケティング論 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ◆学術英語読解演習Ⅱ ・国際食品保健特論 ◆地域包括ケア演習 </td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(リサーチワーク)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別研究 ・大学・大学院, 産業界との連携協定などに基づく交流や共同研究 ・国内外での学会発表や参加 <p>(フィールドワーク)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・つきたい力(向上させたい技能)を明確にし, それに適したフードサービスの現場で実践し, 報告書の作成, など <p>(インターンシップ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・短期インターンシップ <p>例</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 各種給食施設, 給食受託企業, 厨房機器関連企業でのインターンシップ 2) その他フードサービス事業(外食・中食)でのインターンシップ 	修士1年		修士2年		前期	後期	前期	後期	<ul style="list-style-type: none"> ◆医療倫理と研究倫理 ◆学術英語読解演習Ⅰ ◆栄養疫学特論 ◆調査法特論 ◆栄養・食事調査法演習 ・給食経営管理論 ・生産管理特論 ・品質管理特論 ・システム管理特論 	<ul style="list-style-type: none"> ◆疫学統計解析演習 ◆地域包括ケア特論 ・経営戦略と組織管理 ・危機管理学 ・財務・会計管理特論 ・マーケティング論 	<ul style="list-style-type: none"> ◆学術英語読解演習Ⅱ ・国際食品保健特論 ◆地域包括ケア演習 	
修士1年		修士2年											
前期	後期	前期	後期										
<ul style="list-style-type: none"> ◆医療倫理と研究倫理 ◆学術英語読解演習Ⅰ ◆栄養疫学特論 ◆調査法特論 ◆栄養・食事調査法演習 ・給食経営管理論 ・生産管理特論 ・品質管理特論 ・システム管理特論 	<ul style="list-style-type: none"> ◆疫学統計解析演習 ◆地域包括ケア特論 ・経営戦略と組織管理 ・危機管理学 ・財務・会計管理特論 ・マーケティング論 	<ul style="list-style-type: none"> ◆学術英語読解演習Ⅱ ・国際食品保健特論 ◆地域包括ケア演習 											
<p>備考</p>	<p>「給食経営管理論」が学問としての体系化をなされていないことが, 教育上の課題の一つである</p>												
<p>参考資料</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・文部科学省職業実践力育成プログラム:履修証明プログラム, 課程名「健康寿命延伸のための食環境整備に関する高度人材養成プログラム」女子栄養大学大学院 http://www.eiyo.ac.jp/daigakuin/intro/brushupprogram.html (2019年3月29日) ・女子栄養大学大学院修士課程高度人材養成コースカリキュラム http://www.eiyo.ac.jp/daigakuin/course/nutritionmasterpro.html (2019年3月29日) 												

分野	スポーツ栄養
<p>分野の特徴と教育の視点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ スポーツ, 健康増進, 学校, 医療等の現場で, 競技特性や対象者の目的に応じた栄養管理法を選択・実行し, さらにリーダーシップを発揮することができる人材の育成をめざす. ・ スポーツ栄養分野に関わる栄養問題や課題を把握・理解し, 研究に導く能力と実行力を有する人材の育成をめざす. ・ スポーツ栄養分野では, さまざまな対象や場での栄養管理を行うために, スポーツ医学・科学を基盤として, 栄養に関わる専門性を統合する視点が重要である.
<p>特に重要なコンピテンシー (コア項目を除く)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ スポーツ医学・科学(スポーツ生化学・生理学・心理等)の知識を修得し, 栄養管理との関連を説明できる. ・ スポーツ栄養分野におけるさまざまな対象(栄養学的ハイリスク者や障がい者を含む)について, 栄養管理の概念とプロセスを理解し, 実行する. ・ さまざまな競技特性に基づき, パフォーマンス向上やコンディショニングに際しての栄養上の諸問題(サプリメントやアンチ・ドーピングを含む)を把握・評価し, 栄養管理・食環境整備に結びつける.
<p>教育内容の例 (科目例) ◆は分野共通科目</p>	<p>(講義科目)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 医療倫理と研究倫理: 医療における倫理, 人や地域を対象とした研究を行う上での倫理, 情報管理 ◆ 栄養疫学特論: 基礎理論と論文の理解 ◆ 調査法特論: 量的・質的調査法の理解と研究計画 ◆ 地域包括ケア特論: 地域における保健・医療・福祉の連携による生活者の視点を重視したケアを展開するための概念・制度・手法・展開例 ・ 人間栄養学: 分野・対象者別の栄養管理の必要性および方法等 ・ スポーツ栄養学特論: スポーツ医学・科学の理解と栄養学との関連 ・ 栄養実践活動調査研究特論: さまざまな分野における栄養管理の実践活動における研究 ・ 栄養ケア・マネジメント特論: 栄養ケア・マネジメントの概念の理解と現場における実際のプロセスの考察 ・ 食品機能学特論: 食品がもつ機能を理解し, 食品やサプリメントの開発や活用への応用 ・ 人事管理・育成論: 現場でのリーダーシップ発揮の方法 ・ コンサルテーション論: コンサルテーションの理解と組織運営

	<p>(演習科目)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 学術英語読解演習 I・II:自らが必要とする英語論文についての読解と要約・発表 ◆ 疫学統計解析演習:データ収集, 精度管理, データ処理, 解析および提示方法 ◆ 栄養・食事調査法演習:食事評価を中心とする曝露測定 of 技法とデータ処理 ◆ 地域包括ケア演習:多職種および施設連携の下での生活者主体のケアについてのケーススタディ, フィールドワーク ・ 栄養実践活動調査研究特論演習:さまざまな分野における栄養管理の実践活動における研究と現場での展開 ・ 栄養ケア・マネジメント特論演習:栄養ケア・マネジメントの概念の理解とさまざまな分野や対象者における展開 <p>(実習科目)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 栄養ケア・マネジメント実習:スポーツや健康増進の現場での栄養管理の実習 												
<p>カリキュラム 構成例</p> <p>◆は分野共通科目</p>	<p>(コースワーク)</p> <table border="1" data-bbox="494 996 1404 1590"> <thead> <tr> <th colspan="2">修士1年</th> <th colspan="2">修士2年</th> </tr> <tr> <th>前期</th> <th>後期</th> <th>前期</th> <th>後期</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> ◆医療倫理と研究倫理 ◆学術英語読解演習 I ◆調査法特論 ◆栄養疫学特論 ・人間栄養学 ◆栄養・食事調査法演習 ・栄養実践活動調査研究特論 ・スポーツ栄養学特論 ・栄養ケア・マネジメント特論 ◆地域包括ケア特論 ・食品機能学特論 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ◆疫学統計解析演習 ・人事管理・育成論 ・コンサルテーション論 ・栄養実践活動調査研究特論演習 ・栄養ケア・マネジメント特論演習 ◆地域包括ケア演習 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ◆学術英語読解演習 II ・栄養ケア・マネジメント実習 </td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(リサーチワーク)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別研究 ・大学・大学院の連携協定などに基づく交流や共同研究 ・既存データを活用した課題分析 ・国内外での学会発表や参加 <p>(フィールドワーク)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツや健康増進の現場における栄養管理を現場で実践 <p>(インターンシップ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツや健康増進の現場におけるインターンシップ 	修士1年		修士2年		前期	後期	前期	後期	<ul style="list-style-type: none"> ◆医療倫理と研究倫理 ◆学術英語読解演習 I ◆調査法特論 ◆栄養疫学特論 ・人間栄養学 ◆栄養・食事調査法演習 ・栄養実践活動調査研究特論 ・スポーツ栄養学特論 ・栄養ケア・マネジメント特論 ◆地域包括ケア特論 ・食品機能学特論 	<ul style="list-style-type: none"> ◆疫学統計解析演習 ・人事管理・育成論 ・コンサルテーション論 ・栄養実践活動調査研究特論演習 ・栄養ケア・マネジメント特論演習 ◆地域包括ケア演習 	<ul style="list-style-type: none"> ◆学術英語読解演習 II ・栄養ケア・マネジメント実習 	
修士1年		修士2年											
前期	後期	前期	後期										
<ul style="list-style-type: none"> ◆医療倫理と研究倫理 ◆学術英語読解演習 I ◆調査法特論 ◆栄養疫学特論 ・人間栄養学 ◆栄養・食事調査法演習 ・栄養実践活動調査研究特論 ・スポーツ栄養学特論 ・栄養ケア・マネジメント特論 ◆地域包括ケア特論 ・食品機能学特論 	<ul style="list-style-type: none"> ◆疫学統計解析演習 ・人事管理・育成論 ・コンサルテーション論 ・栄養実践活動調査研究特論演習 ・栄養ケア・マネジメント特論演習 ◆地域包括ケア演習 	<ul style="list-style-type: none"> ◆学術英語読解演習 II ・栄養ケア・マネジメント実習 											

備考	学部卒業後、直ちに進学する者と、さまざまな現場において管理栄養士として一定期間以上の勤務歴を有し進学する者とが想定される。このため、求められる教育内容に差異が生ずる場合も考えられる。スポーツ栄養分野としてカリキュラムを展開している大学院が存在しないことが課題の一つである。
参考資料	公立大学法人神奈川県立保健福祉大学大学院保健福祉学研究科 http://www.kuhs.ac.jp/shoukai/2015042100012/#hakasezenki (2019年3月29日)

分野	国際栄養
分野の特徴と教育の視点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国内外における多岐にわたる健康・栄養問題を理解し、公衆衛生学的な観点から栄養不良・過剰の両面に関わる問題をコントロールできる人材をめざす。 ・ 世界の健康・栄養施策の潮流を理解し、我が国としての国際貢献を考える教育機会を設定する。 ・ 活動の場や役割によって専門性はさまざまであるが、Community Health Nutrition の視点が重要である。
特に重要なコンピテンシー (コア項目を除く)	<ul style="list-style-type: none"> ・ グローバル社会における諸問題(人口, 健康(特に, 感染症, NCDs), 栄養, 食料, 社会経済, 環境など)に関して, 過去からの推移, 現状, 将来予測を説明できる。 ・ 国際協力において, 保健分野を超えた地域・社会開発のコンテキストの中で, 健康・栄養施策の潮流を理解し, 我が国としての取り組みを考え, 行動する。
教育内容の例 (科目例) ◆は分野共通科目	<p>(講義科目)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 医療倫理と研究倫理:医療における倫理, 人や地域を対象とした研究を行う上での倫理, 情報管理 ◆ 栄養疫学特論:基礎理論と論文の理解 ◆ 調査法特論:量的・質的調査法の理解と研究計画 ◆ 地域包括ケア特論:地域における保健・医療・福祉の連携による生活者の視点を重視したケアを展開するための概念・制度・手法・展開例 ・ 国際保健学:グローバルヘルスの潮流, 国際的な政策枠組み, プライマリヘルスケア, 国際保健医療の現状と課題, 母子保健, 感染症対策 ・ 国際栄養学:世界の栄養・食料問題, 世界の健康・栄養政策, 保健・栄養分野の国際協力, 途上国における栄養介入プログラム, 災害時の栄養 ・ 国際食品保健特論:国際的な食品流通とコーデックス委員会, リスクアセスメント, リスクコミュニケーション, ハーモナイゼーションと国内基準 ・ 健康政策学:健康の決定要因, 社会的公正, 健康に関わる政策の基本的考え方, 国・地方での実際 ・ 在日外国人と健康・栄養問題:グローバル化と日本国内における課題, 支援方法 <p>(演習科目)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 学術英語読解演習 I・II:自らが必要とする英語論文についての読解と要約・発表 ◆ 栄養・食事調査法演習:食事評価を中心とする曝露測定 of 技法とデータ処理

	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 疫学統計解析演習: 量的研究の計画, データ収集, 精度管理, データ処理, 解析および提示方法 ◆ 地域包括ケア演習: 多職種および施設連携の下での生活者主体のケアについてのケーススタディ, フィールドワーク ・ プロジェクトマネジメント・評価: プロジェクトの計画・提案, 量的質的評価 ・ 地域栄養活動演習: 理論モデルを用いた住民参加型栄養活動計画, 途上国における栄養介入プログラム演習 (例: プロポーザル作成), フィールドにおける栄養アセスメント, 連携, 社会資源の活用, アドボカシー, 政策形成 												
<p>カリキュラム 構成例</p> <p>◆ は分野共通科目</p>	<p>(コースワーク)</p> <table border="1" data-bbox="496 712 1407 1099"> <thead> <tr> <th colspan="2">修士1年</th> <th colspan="2">修士2年</th> </tr> <tr> <th>前期</th> <th>後期</th> <th>前期</th> <th>後期</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 医療倫理と研究倫理 ◆ 学術英語読解演習 I ◆ 栄養疫学特論 ◆ 調査法特論 ◆ 栄養・食事調査法演習 ・ 国際保健学 ・ 国際栄養学 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 疫学統計解析演習 ◆ 地域包括ケア特論 ・ 健康政策学 ・ プロジェクトマネジメント・評価 ・ 地域栄養活動演習 I ・ 在日外国人と健康・栄養問題 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 学術英語読解演習 II ・ 国際食品保健特論 ◆ 地域包括ケア演習 (オプション) ・ 地域栄養活動演習 II </td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(リサーチワーク)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 特別研究 ・ 大学・大学院の連携協定などに基づく交流や共同研究 ・ 国内外での学会発表や参加 <p>(フィールドワーク)</p> <p>例</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 大学・大学院の連携協定に基づく共同研究やフィールドワーク 2) 関連学会主催のトレーニングコースへの参加 <p>(インターンシップ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 短期インターンシップ <p>例</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) JICA 海外の事業現場訪問への参加 2) NGO が主催するスタディツアーへの参加 	修士1年		修士2年		前期	後期	前期	後期	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 医療倫理と研究倫理 ◆ 学術英語読解演習 I ◆ 栄養疫学特論 ◆ 調査法特論 ◆ 栄養・食事調査法演習 ・ 国際保健学 ・ 国際栄養学 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 疫学統計解析演習 ◆ 地域包括ケア特論 ・ 健康政策学 ・ プロジェクトマネジメント・評価 ・ 地域栄養活動演習 I ・ 在日外国人と健康・栄養問題 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 学術英語読解演習 II ・ 国際食品保健特論 ◆ 地域包括ケア演習 (オプション) ・ 地域栄養活動演習 II 	
修士1年		修士2年											
前期	後期	前期	後期										
<ul style="list-style-type: none"> ◆ 医療倫理と研究倫理 ◆ 学術英語読解演習 I ◆ 栄養疫学特論 ◆ 調査法特論 ◆ 栄養・食事調査法演習 ・ 国際保健学 ・ 国際栄養学 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 疫学統計解析演習 ◆ 地域包括ケア特論 ・ 健康政策学 ・ プロジェクトマネジメント・評価 ・ 地域栄養活動演習 I ・ 在日外国人と健康・栄養問題 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 学術英語読解演習 II ・ 国際食品保健特論 ◆ 地域包括ケア演習 (オプション) ・ 地域栄養活動演習 II 											
<p>備考</p>	<p>「国際栄養学」のテキストが我が国では存在しないことが, 教育上の課題の一つである(別紙参照).</p>												
<p>参考資料</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 青森県立保健大学大学院健康科学研究科カリキュラム https://www.auhw.ac.jp/daigakuin/curriculum/curriculum_map_zenki.html (2019年3月29日) ・ 野末みほ, 他: 青年海外協力隊栄養士の帰国後の就業, 社会活動, コンピテンシー到達度, 及び基本コンピテンシーと関連する因子について. 栄養学雑誌 71, 213-224, 2013 ・ 国際保健医療学会編. 国際保健医療学第3版. 杏林書院. 2013年 ・ King FS, Burgess KA, Quinn VJ, Osei AK. Nutrition for Developing Countries. Third Edition. Oxford University Press. 2015 ・ Stein N. Public Health Nutrition: Principles and Practice in Community and Global Health. Jones & Bartlett Learning. 2015 ・ (独)国立健康・栄養研究所. 国際栄養拠点ネットワーク検討会報告書. 2008年 http://www.nibiohn.go.jp/files/report_kokusai_eiyou.pdf (2019年3月29日) 												

(別紙) テキスト「国際栄養学」について

近年、世界における栄養問題が多岐にわたっており、複雑化する栄養問題の解決に向けて我が国としての国際的な視野での取り組みが期待されている。我が国の健康・医療戦略においても、健康・医療に関する国際展開の推進が位置づけられ、内閣官房で「栄養改善事業の国際展開検討チーム」が創設されるなど、日本の国際保健外交戦略に栄養改善が加えられた。また、「成長のための栄養(Nutrition for Growth: N4G)サミット 2020(仮称)」の日本開催が決定されており、今後、管理栄養士あるいは栄養を専門とする者が国際的に活躍する機会が更に増加すること、そして、これらを担う人材育成のニーズが高まることが予想される。

しかし、管理栄養士養成課程における「公衆栄養学」、「栄養教育論」または「国際保健学」のテキストでは国際栄養学についての記載が非常に限られており、系統的・実践的に学修できるテキストとしては不十分であり、「国際栄養学」学修のためのテキストが刊行されることが望ましい。

<構成例>

大項目	中項目
1. 国際保健と栄養	国際栄養学, Sustainability と栄養, 国際保健学とプライマリヘルスケア, グローバルヘルスの潮流と栄養
2. 世界の栄養・食料問題	Food and Nutrition Security, 人口転換, フードシステム, 地球環境と食料・栄養, Global burden of malnutrition, 栄養不良に関連する背景因子, 食品安全
3. 世界の栄養政策	地球レベルの健康・栄養政策, 横断的課題としての栄養, エビデンスに基づく国レベルの栄養政策づくり, 食事基準, 給食制度, 栄養教育, 栄養士養成制度, 食品保健政策
4. 保健・栄養分野の国際協力	国際協力の政策的意義, 国際機関, 日本の政府開発援助(ODA), その他の機関
5. 民族や文化の多様性とその対応	文化的背景にもとづく食習慣(culture sensitive food habit), 在日外国人と健康・栄養問題
6. 栄養アセスメント	栄養スクリーニング・アセスメント・モニタリング, 身体測定, 臨床検査, 食事調査法, その他(質問紙, インタビュー)
7. 途上国における栄養介入プログラム	ライフコースアプローチ, 妊産婦・乳児への栄養介入法, サプリメント・強化食品プログラム, 食物ベースアプローチ, フードシステムへの介入, 緊急時食料援助/災害時の栄養
8. プロジェクトマネジメント・評価	プロジェクトマネジメント, 栄養介入の経済評価

参考資料

表1 大学院における高度人材養成カリキュラム構成例の分野比較

分野	医療・介護	公衆栄養（行政）	給食経営管理	スポーツ栄養	国際栄養
共通科目 講義・演習	医療倫理と研究倫理 栄養疫学特論 調査法特論（量的・質的調査法） 地域包括ケア特論 学術英語読解演習Ⅰ・Ⅱ 疫学統計解析演習 栄養・食事調査法演習 地域包括ケア演習				
リサーチワーク	特別研究 大学・大学院の連携協定などに基づく交流や共同研究・既存データを活用した課題分析 国内外での学会発表や参加				
インターンシップ （3か月～6か月程度、 場は分野によって異なる）	病院、健診センター、高齢者介護施設、地域医療サポートセンター等におけるインターンシップ 海外研修（他国の臨床栄養学を学ぶ、短期インターンシップ）	行政機関におけるインターンシップ 職種や健診機関におけるインターンシップ	各種給食施設、給食受託企業、厨房・機器関連企業でのインターンシップ その他フードサービス事業（外食・中食）でのインターンシップ	スポーツや健康増進の現場におけるインターンシップ	海外研修（JICA海外の事業現場訪問への参加、NGOが主催するスタディツアーなど短期インターンシップ）
分野 個別科目 講義・演習・実習	臨床栄養学特論 EBM特論 臨床研究概論 NCP特論・演習（傷病者） NCP特論・演習（高齢者） 臨床心理学特論 運動療法と栄養管理	公衆栄養学特論 健康政策学 地域・職域栄養活動演習 プロジェクトマネジメント・評価 ヘルスプロモーション演習 給食マネジメント指導・活用論	経営戦略と組織管理 給食経営管理論 生産管理特論 品質管理特論 システム管理特論 危機管理学 財務・会計管理特論 マーケティング論 国際食品保健特論	スポーツ栄養学 人間栄養学 栄養実践活動調査研究特論 栄養実践活動調査研究特論演習 栄養ケア・マネジメント特論 栄養ケア・マネジメント特論演習 栄養ケア・マネジメント実習 人事管理・育成論 コンサルテーション論 食品機能学特論	国際栄養学 国際保健学 健康政策学 地域栄養活動演習Ⅰ・Ⅱ 在日外国人と健康・栄養問題 プロジェクトマネジメント・評価 国際食品保健特論
フィールドワーク （フィールドワークが リサーチワークに該当 したり、インターン シップの一部となる場 合もある）	地域ケア会議等、行政を含む多職種による会議に参加し、退院から在宅栄養管理への流れを学修、など	地域・職域を対象とした、健康・栄養に関わる疫学調査・研究への参加、報告書の作成、など	つけたい力（向上させたい技能）を明確にし、それに適したフードサービス現場で実践し、報告書の作成、など	スポーツや健康増進の現場における栄養管理を現場で実践、など	関連学会主催のトレーニングコースへの参加、など